

平成27年3月24日

平成26年度「石川デザイン賞」の受賞者決定及び表彰式の開催について

石川県では、県民に対するデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図るため、デザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を表彰する「石川デザイン賞」を公益財団法人石川県デザインセンターと共同で、平成11年度から実施しております。

平成26年度の「石川デザイン賞」につきまして、去る2月26日(木)に開催された「石川デザイン賞選考委員会」(委員長：大場 吉美(公財)石川県デザインセンター副理事長)の最終選考委員会において、別紙のとおり、3者を決定いたしました。

つきましては、表彰式を下記の日程で実施しますので、ご案内いたします。

記

1. 日 時
平成27年3月25日(木) 11:00~11:30
2. 場 所
石川県庁 行政庁舎4階 特別会議室
3. 次 第
 - (1) 表彰：表彰状授与 谷本 正憲 石川県知事
副賞授与 中島 秀雄 (公財)石川県デザインセンター理事長
 - (2) お祝いの言葉 谷本 正憲 石川県知事
 - (3) お礼の言葉 各受賞者
 - (4) 記念撮影

《本件に関するお問い合わせは下記担当者までお願い致します》
〒920-8203 金沢市鞍月2丁目20番地
(公財)石川県デザインセンター
担当：志甫(しほ)、中田(なかだ)
電話：076-267-0365

ISHIKAWA DESIGN AWARD

平成26年度 石川デザイン賞

2014

平成26年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■目的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■表彰対象者の選考

①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。

②選考にあたっては、

- ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
- ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
- ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものの観点から審査する。

■表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■石川デザイン賞選考委員名簿

委員長	大場吉美	(公財)石川県デザインセンター副理事長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学教授
委員	宇枝敏夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
〃	木田克之	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	新木伊知子	金沢市経済局営業戦略部長
〃	田畑裕之	石川県工業試験場繊維生活部長
〃	林 健治	金沢商工会議所常務理事
〃	前田博貴	石川県商工労働部産業政策課長
〃	水野一郎	建築家・金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	村上章彦	石川県インテリアデザイン協会副会長
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長
〃	吉田 繁	(一社)石川県繊維協会専務理事

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地 (〒920-8203)

石川県地場産業振興センター新館4階

TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242

ホームページ <http://www.design-ishikawa.jp>



デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎ 受賞者・企業の紹介



わかみやたかし
若宮隆志
漆芸家、彦十蒔絵主宰

受賞理由

漆芸家として輪島塗の伝統的な技法やデザインの要素に、「遊び」や「驚き」を付加することで、独自の世界を構築している。職人集団「彦十蒔絵」の代表も務め、漆芸の新しい世界を切り開くリーダーとしての役割を担っている。

輪島塗の世界で「塗師屋」は、作品の方向性から制作、販売までを一貫して手がける総合プロデューサーの役割を担います。

その塗師屋として、若宮氏は2004年に立ち上げた職人集団「彦十蒔絵」を率い、自身の感覚を取り入れた新たな作品を発表し続けています。そこには好きだった漫画やテレビ、生まれ育った昭和40年代以降の社会現象の影響が色濃く表れ、ユーモアあふれる作品となっています。

昨年の国際公募展「国際漆展・石川2014」で大賞に輝いた「犀の賽銭箱」青銅器のような風合いを漆塗りで表現したサイの造形作品は、一見して重量感がありますが、そこは漆塗り。手にすると非常に軽く、首を跳ね上げると、中に仕組んだミニチュアの賽銭箱が現れるという遊び心に満ちた作品です。

さらに、近年では異分野の工芸作家とのコラボレーションにも積極的です。昨年暮れ、東京・銀座で開催した「融合する工芸展」では、竹工芸や截金ガラス、乾漆、陶芸を手がける作家と共同制作した作品を発表して注目を集めました。

若宮氏が新たな漆の世界に果敢に挑むのは、「日本人のライフスタイルが和から洋へ大きく変わる中で、これまで通りのものを作っているのは、いずれ衰退してしまう」との危機感から。

輪島塗の担い手として、彦十蒔絵をナンバーワンの技術を持った職人集団とするため、人材育成にも情熱を傾けています。



蒔絵の新境地を開いた柴田是真が得意とした青銅塗りを施した「犀の賽銭箱」(左)と、昆虫がユーモラスな雰囲気を生み出す「蠶物 玉蜀黍と飛蝗」

DATA

1964年、輪島市生まれ。2002年、輪島塗漆器青年会会長。04年に「彦十蒔絵」を創設。14年には文化庁文化交流使に指名され、ロンドン、パリ、北京など各地を回り、漆文化の発信に努めている。作品は海外でも高く評価され、ドイツやイギリスの美術館に収蔵されている



ナカダ 株式会社
代表取締役社長 中田正人

受賞理由

創業以来50年にわたり、各種施設やイベントの企画から制作施工、管理運営、市場調査にいたるまで幅広く業務を手がけてきた。また、展示プランニング・ディスプレイ・サイン・ビジュアルデザインにも熱心に取り組み、県内外において高い評価を得ている。

ナカダの業務は多岐にわたります。イベント会場の設営にとどまらず、企画の立ち上げから、図面作成、施工、運営、展示物の選定、ビジュアルデザイン、営業にいたるまで、トータルに手がけることも少なくありません。

工芸王国石川で伝統工芸の細部まで知り、その魅力をきちんと伝えるために蓄積してきたノウハウは、全国的にも高い評価を受けています。「平成の百工比照・美大があつめたものづくりの技と意匠」(金沢美大アートギャラリー)は、日本空間デザイン協会の空間デザイン優秀賞(2014年)を受賞しています。

また、石川県政記念 しいのき迎賓館、金沢21世紀美術館などのほか、東京ビッグサイト、首都圏の百貨店など、企画や展示の業務は県内外だけでなく、海外でも実績を重ねています。国内の219業種もの伝統的工芸品をその都度リサーチし、ニューヨークやパリ、ロンドンなど各地で開催される伝統工芸展にも携わり、日本の伝統文化の紹介に尽力してきました。

さらに伝統工芸だけでなく、「国際ガラス展・金沢」や「国際漆展・石川」などさまざまな分野での空間デザインを行っています。

形態や分野により毎回異なった内容となる苦労もありますが、形だけを取り繕うのではなく、そのものの本質を理解した上での仕事をめざしており、今後も「ものとひと」をつないでいく牽引力として期待されています。



内装デザインと内装工事を担当した金沢百番街あんとの「金沢地酒蔵」(左)、東京ミッドタウンで開かれた「第54回日本クラフト展」の展示構成にも携わっている

DATA

■ 代表者	中田正人	■ 従業員数	50名
■ 所在地	金沢市湊4丁目48	■ 主な業務	展示会、イベントの総合企画・運営業務
■ 創業	1964年	■ 売上高	8億円(2014年3月期)
■ 設立	1979年	■ 資本金	2000万円



株式会社 丸八製茶場
代表取締役社長 丸谷誠慶

受賞理由

150年にわたり加賀棒茶の歴史を歩み、「献上加賀棒茶」で全国に名を広めた。企業としてデザイン活用のプロセスが構築されており、店舗などは茶の香りを表現する質の高いデザイン性があり、ロゴやパッケージのビジュアルも先見性に富んでいる。

丸八は1863年(文久3年)加賀藩前田家の製茶奨励施策に始まります。1983年の昭和天皇ご来県を機に、従来の業務形態を方向転換し、原料にこだわって開発した高級棒茶が「献上加賀棒茶」です。先々代の4代目誠長氏が手描きした文字による落ち着いた外装は、浅煎りの上品な色と香り、味わいにマッチし、ほうじ茶のイメージをグレードアップさせました。

また、本社ショールームは高い完成度が評価され、県インテリアデザイン協会のインテリアデザイン大賞および県デザイン展の金沢市長賞を受賞しています。併設の「茶房実生」や金沢駅百番街あんとの直売店、ひがし茶屋街の「茶房一笑」とともに、日本茶の文化を発信する場としての役割も担っています。

空間デザインだけでなく、新しい商品の開発にも力を注いでいます。「加賀いろはテトラシリーズ」は、九谷焼窯元・上出長右衛門窯が手がける「KUTANI SEAL」とのコラボレーションパッケージです。九谷焼の伝統的な絵柄や加賀色彩を用いながらもポップなデザインと手軽なティーバッグを取り入れ、若年層に日本茶をアピールし、また、仕事のイメージが強い日本茶をより楽しく提供できるよう工夫を凝らしました。

北陸新幹線開業を迎え、初めて富山駅高架下にも直営店を出店するなど、県外への事業展開も視野にあります。同時に家庭においては日本茶のある家族だんらんの風景を取り戻したいと、今後も挑戦は続きます。



主力商品の「献上加賀棒茶」はほうじ茶としては異例の一番茶の茎だけを使用(左)、5種類ある「加賀いろはテトラシリーズ」はそれぞれ中に異なる日本茶が入っている

DATA

■ 代表者	丸谷誠慶	■ 従業員数	42名
■ 所在地	加賀市動橋町タ1番8	■ 主な業務	製茶・販売業
■ 創業	1863年(文久3年)	■ 売上高	6億円(2014年4月期)
■ 法人組織	1954年	■ 資本金	2000万円

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告のもとより、Webデザイン、C I、都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に関しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象にしています。

平成26年度は、次の3件が受賞しました。ご一読いただければ幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 **中島秀雄**